

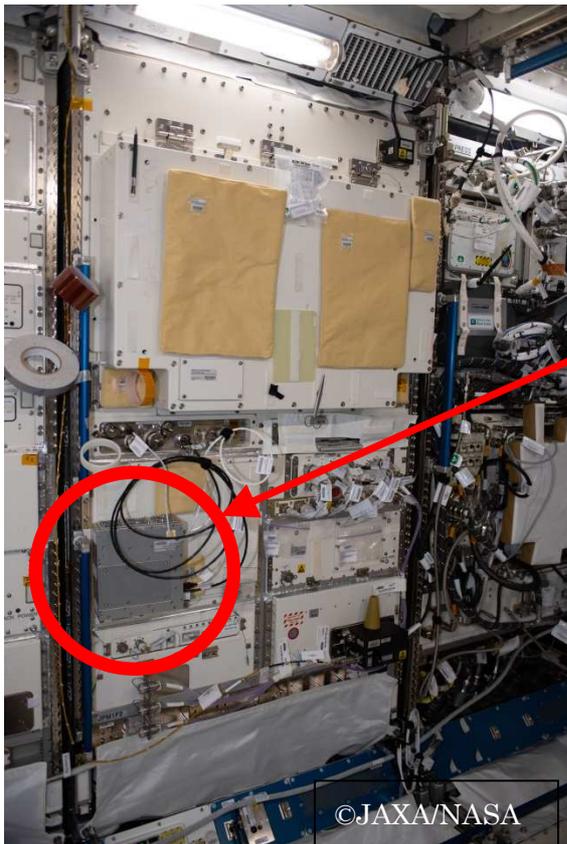
“国際宇宙ステーションと地上をつなぐ通信・制御装置が稼働開始”

～国際宇宙ステーション内に設置、宇宙での実験に寄与～

国際宇宙ステーションにある日本の実験棟「きぼう」(以下、「きぼう」)で使用する当社製通信・制御装置(以下、PL Cntl Box)は、2018年6月末に米国SpaceX社CRS-15(SpX-15)ミッションのドラゴン補給船に搭載され、ファルコン9ロケットにて打ち上げられました。

無事に「きぼう」内に搬入され、国際宇宙ステーションに滞在する宇宙飛行士により、各種実験を行う多目的実験ラック(Multi-purpose Small Payload Rack: MSPR-2)に設置され、JAXAの実験運用管制チームによる起動確認や各種動作確認も完了し、稼働開始されました。

早速、PL Cntl Boxは高度化する宇宙での実験において活用が開始されており、今後、「きぼう」と地球をつなぐ装置、実験をサポートする機器として更に活躍する予定です。



多目的実験ラック2(Multi-purpose Small Payload Rack: MSPR-2)に設置された通信・制御装置(PL Cntl Box) / 「きぼう」船内実験室(PM) / 撮影日:2018年8月21日
©JAXA/NASA

